

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス
海老名総合病院
座間総合病院
海老名メディカルプラザ

平成 29 年春号

ちれん便り



タイトル：『春の訪れ』

撮影：座間総合病院 職員

JM JAPAN MEDICAL ALLIANCE
社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス

発行：海老名総合病院・座間総合病院・海老名メディカルプラザ 地域連携課

〒243-0433 神奈川県海老名市河原口 1320 TEL:046-233-1311(代)

URL:<http://ebina.jinai.jp/> 【発行日】平成 29 年 4 月

新年度ごあいさつ

海老名総合病院
病院長 服部 智任



日頃より皆様には、ひとかたならぬご支援を賜りまして心より感謝申し上げます。

準備を進めてまいりました救命救急センターですが、神奈川県より開設許可がおり4月1日より稼働を始めました。救命救急センターの開設にあたりましては、行政からの指導のみならず、連携していただいている皆様のご協力あつての賜物と考えております。この場を借りまして御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

神奈川県県央地域で初めての救命救急センターということで、私自身も責任の重さを感じております。しかしながら救命救急センター開設準備の段階から協力いただいている東海大学救命救急科の猪口教授はじめ多くの先生方よりご指導を賜りながら、また皆様のご要望をお聞きしながら真摯に運営していく所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。生まれたばかりの救命救急センターですので、至らぬ点多くご迷惑をおかけする場面も出てくると思いますが、その際には忌憚のないご意見をいただきたく存じます。

一方、昨年度は神奈川県におきましても地域医療構想の策定がなされ、今年度からその実現に向けて各医療機関は行動していくこととなります。当院は策定された構想の中で謳われている専門性の高い高度急性期から急性期に至る医療の提供を目指していきます。

しかし以前から申し上げます通り、医療は地域に根ざしたものであることが基本となりますから先生方のバックアップ病院としての機能も兼ね備えたいと考えております。様々な意味で先生方のお役に立てる病院となれるよう職員ともども取り組んでまいりますので、ご要望がございましたら遠慮なくお声掛け下さい。よろしく願いいたします。

新年度ごあいさつ

座間総合病院
病院長 渡 潤



皆さま、こんにちは。座間総合病院病院長の渡 潤です。皆さまにおかれましては日頃より温かいご支援を賜り誠にありがとうございます。

座間総合病院は昨年4月1日に座間市相武台に開院いたしました。ベッド数352床、一般急性期、回復期リハビリテーション、療養病棟と各フロア別に異なった機能の病床を有し幅広い医療ニーズに対応する病院です。診療科の詳細はホームページをご確認頂きたいのですが、大きな特徴としては「総合診療科を中心とした救急医療の充実」、「高い満足度の人工関節・リウマチセンター」、「リハビリテーションの強化」が挙げられます。

救急医療の初期治療においては臓器別の専門的医療よりも、横断的な幅広い対応が必要な場面が多く、総合診療科はその中心的役割を果たします。総合診療科のみで完結する疾患も多いのですが、もちろん必要であれば速やかに当院内外の臓器・疾患別専門医に引き継ぎます。人工関節・リウマチセンターは海老名総合病院から移設されましたが、開院当初より患者さんが多数来院し股関節・膝関節疾患、リウマチ病について高い満足度を提供出来る治療を行っています。さらに本院では、各病棟にリハビリスペースを設置すると共に必要十分なセラピストを配置しリハビリテーション機能を強化、早期の家庭・職場への復帰を目指します。

近隣にある同一法人の海老名総合病院はより重症度の高い患者さんを受け入れるべく「高度急性期病院」へと変容していきます。座間総合病院が目指すのは、それ以外の患者さんを受け入れる地域密着型病院です。座間市・海老名市を含む県央地域を一つの医療圏と考えた場合、限られた医療資源を有効活用するためには同じ機能の病院が複数存在するよりも、異なる機能の病院が連携協力する事が必要となります。

これからも地元医師会の先生方、介護福祉事業者、行政と一体となり県央地域住民の健康を守るために全力で取り組みます。

今後とも皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成 29 年 4 月 1 日 海老名総合病院 救命救急センター始動



救命救急センター長就任のご挨拶

皆様初めまして。この度、海老名総合病院救命救急センター長に就任致しました山際武志と申します。救命救急センターがない唯一の県央医療圏に、新たに救命救急センターを開設することになりました。県央地域の救急医療を皆様とともに支えられるよう尽力して参りたいと考えております。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようどうぞ宜しくお願い申し上げます。

救命救急センター長 山際 武志

名取 穰治 (なとり じょうじ)



4 月から、地域に貢献できる救命救急センターとして新しい体制となり、若いスタッフが皆頑張っています。これからも宜しくお願いします。

花岡 毅 (はなおか つよし)



昨年度に引き続き、精神保健指定医として、救命救急センターに配属になっております。宜しくお願いします。

日比野 壮功 (ひびの たけのり)



総合診療科との兼任です。重症度に関わらない救急患者のスムーズな入院受け入れ、退院後のことも考えた、きめ細かい入院管理、また、退院後の「かかりつけ医」とのスムーズな連携を目指します。

佐藤 俊樹 (さとう としき)



救急医療の本質は、1 次・2 次・3 次という枠組に関わらず、全ての患者の対応をすることにあると考えます。1 次～3 次という分け方は医療者の目線からの後分類であって、患者さんはどこのどの疾患であるかは分かりません。そういった意味での「地域サービス」という救急の本質の 1 つを忘れずに頑張っていきたいと思えます。

伊倉 崇浩 (いくら たかひろ)



はじめまして。4 月 1 日より海老名総合病院に赴任しました。これまで、精神・神経科にて専ら認知症患者の診断、加療を行ってきました。その中で、救急医療のニーズを実感し、救命医・精神科医としてダブルボードを目指すこととしました。至らないことも多々あると思いますが、宜しくお願いいたします。

去川 秀樹 (さるかわ ひでき)



当院外科より出向しております去川と申します。近隣地域の先生方におかれましては、いつも大変貴重な患者様をご紹介いただき、厚く御礼申し上げます。私個人としては救急科配属となってからまだ日が浅く、救急の難しさを日々実感しておりますが、少しでも地域の救急医療に貢献できるよう尽力して参りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

西野 智哉 (にしの ともや)



皆様初めまして。今回、救命救急センター立ち上げに携わることができて、光栄に感じております。微力ながら一生懸命頑張ろうと思っておりますので、よろしくお願いたします。